

げんたろう  
**町田市議会議員 渡辺 徹太郎 市政報告**



《プロフィール》 昭和48年 町田市玉川学園生まれ 玉川学園在住  
玉川中央幼稚園 / 町田市立第五小 / 町田市立南大谷中 / 都立町田高校  
日本大学法学部法律学科卒 / 新光証券（現みずほ証券）勤務  
平成22年 町田市議会初当選、現在3期目 / 平成28・29年度 町田市議会災害対策委員長

## ■ 静かな空が町田に返ってきた！

厚木基地など「日米安全保障条約」に基づき日本に駐留する米軍の問題は、外交や国防の観点から、一義的には日米両国政府間で取り扱われるものですが、厚木基地による様々な影響を受ける町田市では、防衛省や外務省などへの要請活動のほか、直接、米側への要請も行ってきました。

私は、基地問題は日本の安全保障や外交に関わる重要事項ですので、「静かな空を返せ！」と繰り返し叫び続けるだけでは、騒音解消に何の効果も無いと思ってきました。重要事項であるからこそ、きちんと互いの顔が見える関係になり、良い関係を築き、ただ主張するだけではなく、代替え案を示しながら理解や協力を促し、時間をかけて交渉しなければ、効果は出ないものだと思います。

この度、長年の交渉により空母機動部隊である「米海軍第5空母航空団」が岩国に移転され、

## 町田市のジェット機騒音はゼロになりました。

私は、静かな空が返ってきたこの現在の良好な関係を維持発展させるため、町田市の防災訓練に厚木基地の米軍や海上自衛隊の参加協力を要請することを、町田市議会において提案しました。

このことは、東日本大震災以前に、町田市とアメリカ海軍厚木基地で締結された「災害時応援協定」をより強固にし、町田市の災害対応能力を向上させることにも資する政策だと思っています。



在日米海軍司令官 グレゴリー・フェントン少将と

## ■ 子育て支援策（待機児童）について 1～2歳からでも入園できる保育制度を

0歳で保育園に入園しないと、1～2歳になってからでは入園が難しい現状を改善すべきであるし、平等性の観点からも家庭での保育を希望する保護者に対しても支援策を、と議会で発言してきました。

これに対して町田市では、待機児童が集中する地域にピンポイントで、0～2歳児を対象とする定員19人の小規模保育所を重点的に整備し、平成31年度中に待機児童ゼロを達成する見込みとなりました。また、家庭での保育者に対しても、効果的な子育て支援策を研究していくとのことです。

## ■ 「救急隊の効果的運用」を行う「原町田分駐所」が開所！

町田消防署が中町から本町田に移転しました。都内最大規模の消防署が町田市全域の距離的中心地に開設されたことは、長年、町田市議会において町田市の災害対応能力の向上を求めてきた私にとっての悲願ですし、市内全域の町田市民にとっても大変心強く、喜ばしいことだと思います。

一方、私は、国内有数の乗降客数を誇る町田駅周辺の救急車の需要に対し、人口密度が一番高い原町田、森野、中町を含む中心市街地に「出張所を整備すべき」と議会で要請してきました。

これに伴い、平成30年5月16日、原町田4丁目に都内では初となる「救急隊の効果的運用」を行う「原町田分駐所」が開所し、運用が開始され、救急隊到着時間が大幅に短縮されました。

## ■ 増加する外国人医療費が国民健康保険を圧迫！

加速する高齢化等を背景に、国の国民医療費は毎年1兆円を超える規模で増え続けており、日本の財政を圧迫し続けています。平成30年から、保険料は平均26%も値上げとなっていますが、このままでは近い将来、日本の健康と長寿を支えてきた「国民健康保険制度」も破綻しかねないと言われるようになってきました。

そんな中、訪日客の増加を受け、けがや病気で病院を受診した外国人が医療費を支払わないケースや、来日して短期間しか保険料を支払っていないのにも関わらず、ビザ制度を悪用し、外国人が日本の保険制度を利用して高額な医療を1～3割負担で受けられてしまう日本の保険制度について、病院経営や保険制度への影響を危惧する声が出始めています。厚生労働省の調査では全国1378病院のうち、35.3%にあたる486病院が外国人患者の医療費の未払いを経験しています。

また、出産場所の国内外を問わず一児出産するごとに42万円受け取れる「出産育児一時金」がありますが、荒川区では人口比3%足らずの中国籍の方々がなぜか受給の26%を占め、しかもそのうち海外での出産は65%にも上っています。

そもそも外国人が母国で出産する費用や治療費をなぜ日本人が負担するのでしょうか？

見方を逆にしますと、外国に駐留している日本人が日本で治療を受けて、その駐在先の国がその費用を払ってくれるのでしょうか？ ありえません。

このようなケースは生涯に渡り保険料を払い続けている人からすると納得できるものではなく、日本の保険制度の信頼感や公平感にかかわる問題です。

私はこの問題に対し①医療費の未払い②高額医療費の不正受給③保険制度自体、の3点において問題があると思ひ、議会の一般質問を通じて町田市における不正利用の実態調査とチェックを促しました。

また、この議会原稿をインターネットを通じて全国へ拡散することにより、**1800以上ある地方自治体議会から国へ声を上げることで、政府へ実効性のある対策を促し、厚生労働省でも事態解明に動き出しました。**訪日外国人数が増加する中、政府の急務課題だと思っています。

長文になりますが、議会原稿はこちらを是非ご覧ください → [「町田市 外国人医療費」で検索](#)



## ■ 原町田の長崎屋跡地について

当該地に遊技場と300台の駐車場が開設されると、駐車場利用車両はすべて原町田大通りの民間交番の所へ出てくることとなります。このままでは、フェスタ町田など、原町田大通りで開催してきたイベントも実施が不可能となります。**イベント時には裏に臨時出口を設けること、また、遊技場と駐車場にはセットバックをお願いし、町田市は狭隘な道路を拡幅して中心市街地から町田街道まで出る円滑な交通の流れを確保するべきだ**と発言してきました。現在、実現に向けて調整が行われています。

## ■ 市民病院の「地域医療支援病院」承認について 地域医療レベルが向上！

市民病院は「災害拠点病院機能」として、災害時の重篤救急患者の救命医療や広域搬送への対応、災害医療チーム（DMAT）の派遣機能など重要な役割を担っています。

災害医療体制の充実が必要なのはもちろん、市内全域の医療資源を最大限に有効活用しなくてはなりません。また、地域内で医療を完結させるためにも、町田市民病院は「地域医療支援病院」の承認を目指し、地域医療の中心となって町田市全域の医療体制の効率化を図っていくべきと発言してきました。

**町田市民病院は、予定より2年も前倒しして平成30年8月30日、東京都から「地域医療支援病院」の承認を受けました。**町田市全域の医療が効率化され、地域医療レベルが向上していくことは喜びです。

日々の活動はブログで配信しています。ぜひご覧ください。 [「渡辺げんたろうブログ」で検索！](#)